



イネカメムシの発生量が増加

水稲の品質低下や減収を招く

カメムシ類の被害にご注意ください。

本県で発生する**斑点米カメムシ類**の中で、近年、**イネカメムシ**の発生量が増加しており、従来の乳熟期の防除だけではなく、**出穂期**と**乳熟期**における**2回の防除**が必要です。



イネカメムシによる被害



イネカメムシ

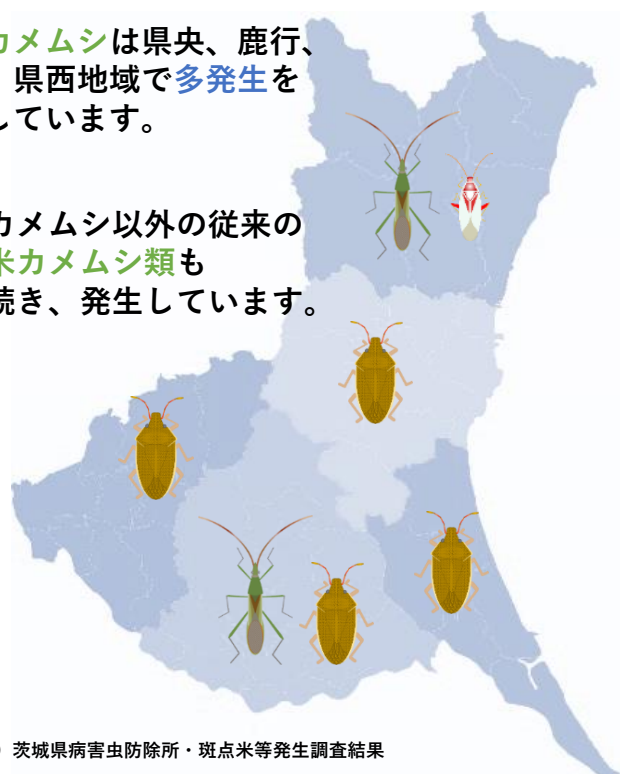


クモヘリカメムシ

斑点米カメムシ類の発生状況(R6年)

イネカメムシは県央、鹿行、県南、県西地域で**多発生**を確認しています。

イネカメムシ以外の従来の**斑点米カメムシ類**も引き続き、発生しています。

**斑点米カメムシ類の特徴**

イネカメムシ

- ✓ **基部斑点米**を発生させるほか、出穂期の籾を加害し、**不稔**を発生させる
- ✓ 周辺雑草の除草による防除効果は期待できない



クモヘリカメムシ

- ✓ **斑点米**を引き起こすとともに、多発生時には出穂期の籾を加害し、**不稔**を発生させる
- ✓ 出穂2週間前までの周辺雑草の除草が効果的



アカスジカスミカメ

- ✓ 籾の頂部や割れ籾の側面を加害し、**斑点米**を引き起こす
- ✓ 出穂2週間前までの周辺雑草の除草が効果的

2回!

主食用米では、**出穂期と乳熟期に防除**が有効です！

対策を講じれば、収量・品質はこんなに向上します！

●**出穂期**（出穂0～3日後）に
薬剤散布を実施することで
収量向上（不稔減少）

●**乳熟期**（出穂10～15日後）に
薬剤散布を実施することで
品質向上（斑点米減少）

～本県における試験研究より～

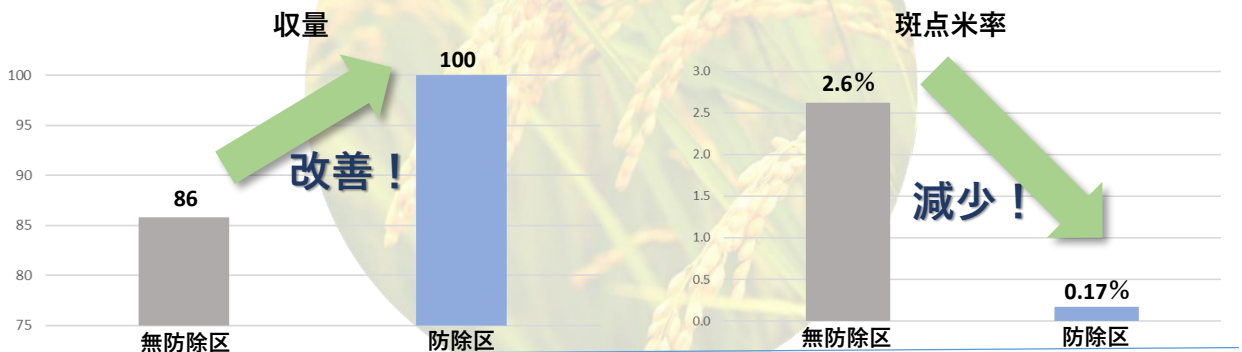


図1 出穂0～3日後における防除効果
（イネカメムシ）

図2 出穂10～15日後における防除効果
（イネカメムシ）

※防除区の収量を100とした相対値
※出穂期は、全茎の40～50%が出穂した日

飼料用米では、**出穂期に1回防除**を行いましょう！

飼料用米でも出穂期に防除することで、**減収被害の低減**を図れます。

防除が行われていないほ場や、周囲より**出穂が早い品種**のほ場、**出穂が遅い品種**のほ場は、イネカメムシの**集中加害**を受ける場合があります。

ポイント
①

自身で薬剤散布が困難な場合は、
無人ヘリやドローン等を活用した
作業委託を検討しましょう。

ポイント
②

～**斑点米カメムシ類にも総合防除で対策を**～

斑点米カメムシ類の防除は、薬剤散布だけでなく、
除草や品種を揃えた作付けも有効です。
地域全体で取り組んでいきましょう。

